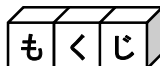


京都あぐい便い



近畿農政局京都支局
発行: 令和元年11月25日

須津イチョウ並木(宮津市)



P1・・・食料・農業・農村政策審議会企画部会地方意見交換会が京都で開催されました！

P2・・・「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第6回選定)結果

令和元年度豊かなむらづくり全国表彰事業『上宮津地域会議(宮津市)』が近畿農政局長賞を受賞

P3・・・現場だより「独自の栽培技術で「丹波くり」を栽培 丹波マロンファーム(京丹波町)」

P4・・・京都府農業の現状、近畿農政局京都支局からのお知らせ

食料・農業・農村審議会企画部会地方意見交換会が 京都で開催されました！

農林水産省は、令和元年11月15日に、京都市において「食料・農業・農村政策審議会企画部会地方意見交換会」を開催し、新たな食料・農業・農村基本計画の策定に向けた意見交換を行いました。

意見交換会では、企画部会におけるこれまでの審議の経過報告と農業者、消費者、地方行政機関等の有識者による意見陳述が行われた後、意見陳述者と企画部会委員による活発な意見交換が行われました。

同審議会企画部会に関する情報は以下のURLで、ご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/kikaku/bukai/index.html>



【お問合せ先】 近畿農政局企画調整室 075-414-9037



「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第6回選定)結果

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」は、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国に発信するものです。

令和元年10月21日に、内閣府及び農林水産省は、首相官邸において、第3回有識者会議を開催し、全国で31地区を選定しました。京都府内からは「農福連携で広がる地域コミュニティの輪」をキャッチフレーズとした『さんさん山城』の活動が選定されました。



さんさん山城の取組風景

詳細については、以下のURLをご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/kinki/keikaku/nousonshinkou/kasseika/dis.html>

【お問合せ先】

近畿農政局農村振興部農村計画課 075-414-9051



令和元年度豊かなむらづくり全国表彰事業

『上宮津地域会議(宮津市)』が近畿農政局長賞を受賞

豊かなむらづくり全国表彰事業(農林水産祭むらづくり部門)は、農山漁村における「むらづくり」の優良事例の表彰を行うことにより、むらづくりの全国的な展開を助長するとともに、地域の連帯感の醸成及びコミュニティ機能の強化を図り、農林漁業及び農山漁村の健全な発展に資することを目的に実施されています。

京都府内からは、地区の少子高齢化・過疎化の危機感から地区全住民にアンケート調査を行い、新たに「上宮津2022年ビジョン」を策定、実現に向け、特産品の事業化への挑戦、地域農林漁業の振興や定住促進への活動に取り組んだ『上宮津地域会議(宮津市)』が近畿農政局長賞を受賞されました。



〈休耕田を利用したホンモロコ養殖〉



〈渓流水を利用した「溪流式わさび田」〉



〈樹木粉碎機による竹チップ化〉

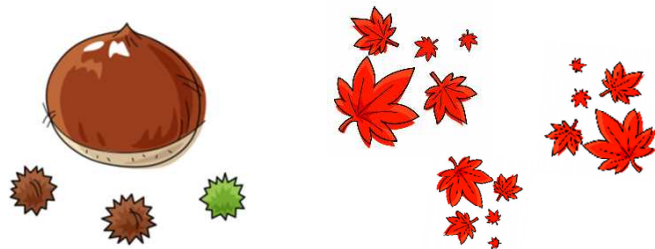
詳細については、以下のURLをご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/kinki/press/keikaku/nousonshinkou/191018.html>

【お問合せ先】

近畿農政局農村振興部農村計画課 075-414-9050





独自の栽培技術で「丹波くり」を栽培 丹波マロンファーム（京丹波町）



丹波マロンファームの3代目である山内善継さんは、16歳から栗の栽培を始め、55歳で町役場を退職後、経営を本格化させ、現在、1haの面積で丹波くりを栽培されています。

また、丹波くりの加工・販売等の6次産業化の取組も手掛けておられます。

栽培に当たっては、栗の木に効率よく太陽の光があたって、大粒の栗がたくさん収穫できるよう、3.5mの高さに剪定する低樹高栽培をされていますが、現在では、さらに栽培がしやすいように、樹高を2.5mにする剪定に取り組んでおられます。

良質な丹波くりを栽培するための剪定作業は、収穫後から開始し、春先まで続けられるとのこと。



休耕田を活用した栗園の造成や低樹高栽培に取り組むとともに、栽培技術の普及に向けた研修会や講習会の講師を務められるなど、日々、丹波くりの振興にも御尽力されています。

また、山内さんは、これまでの功績が認められ、平成26年春の黄綬褒章を受章されています。



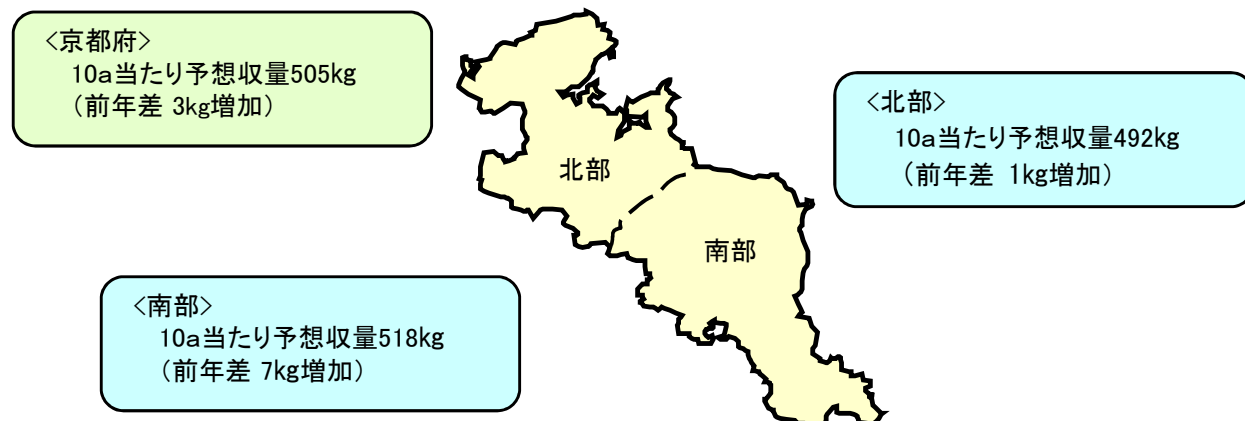
京都府農業の現状

令和元年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在） （京都府）

令和元年産水稻の作付面積（子実用）は1万4,400haで、うち主食用作付見込面積は1万3,800haが見込まれます。

作柄は、全もみ数と登熟が、「平年並み」と見込まれることから、10月15日現在の10a当たり予想収量は505kg（前年産に比べ3kg増加）が見込まれます。

図 作柄表示地帯別の10a当たり予想収量（10月15日現在）



○ 本調査は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行ったが、一部収穫を終わっていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

資料：近畿農政局統計部生産流通消費統計課

～近畿農政局京都支局からのお知らせ～

「ノウフクJAS」が始まりました！

農福（ノウフク）JASとは、障害者が生産行程に携わった生鮮食品及びこれらを原材料とした加工食品を日本農林規格（JAS）として認証するものです。令和元年11月1日に第1号として4事業者（京都で1事業者）が認証を受けました。

農福連携は、就労に困難がある方々（障害者など）に農業分野で活躍してもらい、自信や生きがいを持って社会に参画していただくための取組です。

ノウフクJAS認証マークにより農福連携を消費者にPRするとともに付加価値の付いた商品として販売できることから、障害者の雇用と農業の担い手確保につながる農福連携の取組が拡大することを期待しています。



日本基金
ノウフクロゴは日本基金の登録商標です。ノウフクロゴ付きのJASマークをご使用いただけるのは、日本基金を通じて認証を取得いただいた事業者様に限ります。



© 2019 農林水産省

「あふてらす」は、農業・林業・漁業、その加工・販売に興味がある方、これからはじめたい方向けの情報を発信しています。

http://www.maff.go.jp/j/aff_terrace/



お問合せ先：近畿農政局京都支局

〒602-8054 京都市上京区西洞院通下長者町下る丁子風呂町

TEL: 075-414-9015 FAX: 075-414-9057

ホームページ: <http://www.maff.go.jp/kinki/tiiki/kyoto/index.html>

